



〇〇 〇〇さん  
(五城目小6年・西磯ノ目)

今まではかるたにあまり興味がありませんでしたが、今回のかるた大会を通じてかるたの楽しさを知りました。かるたには五城目のことがたくさん書かれていたので、ふるさとの良さを改めて知ることができました。



〇〇〇〇〇〇さん  
(五城目小6年・今町)

全校のみんなで一緒にかるたをするのは初めてで、卒業前の良い思い出になりました。家族ともこのかるたで遊んでみたいと思ったのと、百人一首にも挑戦したいです。



〇〇 〇〇さん  
(五城目小5年・東磯ノ目)

大会の準備で横断幕を作るときは、絵を描いたり色を塗ったりと大変でした。当日も、ルール説明などの仕事があって緊張しましたが、とても楽しいかるた大会になったので、準備をがんばってよかったです。



〇〇 〇〇さん  
(五城目小5年・雀館)

大会の当日は進行などを担当し、準備と変わった点があっというまに不安でしたが、全校のみんなが楽しんでくれたので嬉しかったです。来年は6年生として班のみんなをしっかりとまとめたいです。



平成10年度に製作された「五城目小ふるさとかるた」。当時在籍していた子どもたちの作品の中から選ばれたものがそのまま、読み句と絵札になっています。



かるたの原画は、五城目小で現在も大切に保管されています。大会の準備や当日の進行は、高学年の子どもたちが担当。



# ふるさとの魅力、かるたで再発見!

五城目小で行われた「ふるさと縦割りかるた大会」。大会は新型コロナウイルス感染防止対策として教室やワークホールなど24の会場に分けて行い、縦割り班ごとに取ったかるたの枚数を競い合いました。

## 風土や文化を学びながらかるたで真剣勝負

1月28日、五城目小学校で行われた「ふるさと縦割りかるた大会」では、町の伝統や文化、豊かな自然などを盛り込んだ「五城目ふるさとかるた」を使いながら、子どもたちが真剣勝負を繰り広げました。

「五城目小ふるさとかるた」は「あ」から「わ」まで読み札と取り札がそれぞれ44枚あり、読み句と絵札は全て、平成10年度に五城目小に在籍していた子どもたちの作品の中から選ばれたものです。

この日のかるた大会では、24の縦割り班に分かれた全校の子どもたちが校内放送に耳を澄ませ、それぞれの教室やワークホールのスピーカーから流れる読み札の内容をもとにかるたを取り合い、学年を越えた交流を図りながら、地域の風土や文化を学びました。

## ふるさとの魅力や歴史を形にして未来へ残す

平成10年度に完成した「五城目小ふるさとかるた」が、同校の行事で使用されるのは今回が初めてです。大会を企画した小玉史男校長は、「かるたという遊びを通じて地域の文化や歴史を学ぶだけで

なく、町の魅力を再発見する機会になればと思います。大会を企画しました。かるたの題材となっている様々な分野のことに興味をもち、ふるさとへの愛着をますます深めていってほしいです」と、お話ししていました。

また、平成10年度に校長として同校に勤務し、かるた製作の取りまとめを行っていた伊藤恵朗さん(83歳・新畑町)は、「当時力を入れて取り組んでいた『ふるさと学習』の総決算として、町の自慢や伝統などを形にしたのがこのかるたです。今回の大会のように、子どもたちに実際に使ってもらうのは嬉しいことですし、今後もこのかるたを通じて町の魅力を再発見するだけでなく、作った当時の町の姿を思い浮かべ、町の歴史や文化に関心をもってもらえれば幸いです」と、お話ししていました。

